



# INKA LASHING SYSTEM

## 取扱説明書

ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読み頂き、内容をよくご理解頂いたうえで、インカ・ラッシングシステムをご使用下さい。また、必要と思われる部署や現場には必ず配布し、必要な場合にはいつでも参照できるようにしておいて下さい。

※この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって次の2段階に区分しています。

**危険** 取扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡、または重症を負う可能性が高いと考えられる場合。

**注意** 取扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、障害を負う可能性が高いと考えられる場合、及び物的損害が考えられる場合。尚、『注意』に記載した事項でも、取扱い方法によっては、『危険』と同じ状況になる場合があります。

### 1 インカ・ラッシングシステムの選定にあたって

- インカ・ラッシングシステム(以下ベルトラッシングという)の選定にあたっては、次に記載する項目についてご確認の上、選定して下さい。
  - a)ベルトラッシングは、使用方法に適した十分な強度と正しい長さのものをお選び下さい。
  - b)ベルトラッシングの選定には次の項目を考慮して下さい。
    - 1) 荷の寸法、形状及び重量
    - 2) 荷の性質(液体、薬品、危険物、易破損品)
    - 3) 荷の輸送環境
    - 4) 使用方法
    - 5) 取付け及び取外し作業の容易さ
    - 6) 輸送工程中に荷の一部を荷降ろしする場合
    - 7) 荷の固定に必要なベルトラッシングの数量及び荷の固定方法

### 2 ご使用にあたって

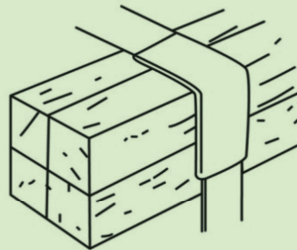
**危険**

- ベルトラッシングを使用する際は次に記載する項目をお守り頂き、使用して下さい。
  - a)荷の輸送開始前及び輸送中、定期的にベルトラッシングの状態を確認して下さい。
  - b)端末金具付き形を使用する際は、金具を正しく固定点に掛けて下さい。
  - c)ベルトラッシングを取り外すときは、荷が安定して移動及び落下しない状態が確認した上で取り外して下さい。
  - d)積み上げた荷を降ろすときは、必ずベルトラッシングを外してから荷を持ち上げて降ろして下さい。
  - e)角のある荷を固定するときは、ベルトの損傷を防ぐために当もの(コーナーパッドなど)を装着し、使用して下さい。
  - f)ベルトラッシングは、玉掛け作業には使用しないで下さい。
  - g)ベルトを結んだり、ベルト同士を引っ掛けたりしないで下さい。
  - h)使用温度は100℃以下とし、-30℃~50℃の温度範囲を超えて使用する場合は、最大使用力について弊社へお問合せ頂いた上でご使用下さい。
  - i)ラチェットバックルは、ベルトを巻軸に巻き過ぎないように、余分な長さはハンドル操作前に調節した上でご使用下さい。
  - j)ラチェットバックルはベルトを巻軸に1回半以上巻き取った上でご使用下さい。
  - k)ベルトラッシングを引きずったり、投げたりしないで下さい。
  - l)走行中の振動などで荷が移動してベルトに緩みが発生することがあるため、ベルトラッシングを定期的に増し締めしてご使用下さい。
  - m)壊れやすい荷を固定するときは、ベルトラッシングの締付力を調節してご使用下さい。

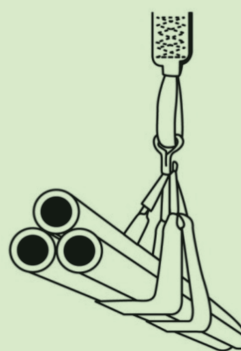
n)バックルの作動を円滑にするために、適時注油をして下さい。但し、注油後に余分な油は拭取って下さい。



輸送前、輸送中、定期的な確認を実施



角のある荷は、コーナーパッドを使用



玉掛け作業には使用しない



ベルトを結んで使用しない



適時注油をして使用

### 3 保管にあたって

**注意**

- 使用期間が容易に確認できるように、管理台帳や管理番号により使用開始時期を明確にしておいて下さい。
- ベルトラッシングを使用しない場合は、太陽光、紫外線などの影響を受けず、清潔で乾燥し、換気された温度が均一の部屋の中で、熱源、薬品、溶剤から離れた非腐食性の棚などに置いて保管して下さい。
- ベルトラッシングの保管前に使用時に起こりえた損傷の有無を調べて下さい。損傷が認められたベルトラッシングは、以下の点検基準により廃棄して下さい。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を使用して冷水で洗って下さい。

### 4 点検にあたって

**危険**

- ラベルにより最大使用荷重が確認できないものは、使用しないで下さい。
- 点検の結果、廃棄することになったベルトラッシングは、その場で切断して完全に使用できない状態にしてから廃棄して下さい。
- コーナーパッドを使用している場合は、コーナーパッドを移動させて隠れている本体部分及びコーナーパッド自体も点検して下さい。
- ベルトラッシングは、使用前に日常点検を必ず行って使用して下さい。点検項目、点検方法及び廃棄基準は、裏面の通りです。

# インカラッシングシステム点検基準

ベルトラッシングは、日常点検及び定期点検を行って使用して下さい。

- 日常点検 使用前に行う点検をいう。
- 定期点検 定期的に行う点検で、使用頻度によって異なるが、原則として1ヵ月ごとに行う。

点検項目、点検方法、廃棄基準は下表の通りです。

点検項目	点検の種類		点検方法	廃棄基準	
	日常点検	定期点検			
ベルトの損傷の状態(摩耗、きず及び縫糸の切断)	a)アイ	○	○	目視	1)織目がわからないほどに毛羽立ちし、たて糸の損傷が認められるもの。 2)目立った切りきず、擦りきず、引っ掛けきずなどが認められるもの。 3)縫糸が切断して、アイの形状が保たれないもの。
	b)縫製部	○	○	目視	1)目立った切りきず、擦りきず、引っ掛けきずなどが認められるもの。 2)縫糸が切断して、ベルトの剥離が少しでも認められるもの。
	c)本体	○	○	目視	1)全幅にわたって織目がわからないほどに毛羽立ちし、たて糸の損傷が認められるもの。 2)目立った切りきず、擦りきず、引っ掛けきずなどが認められるもの。
その他の外観異常	○	○	目視	熱、薬品などによる著しい変色、着色、溶融、溶解などが認められるもの。	
使用期間	-	○	管理台帳、表示などの確認	ベルトラッシングの使用状況によって、外観に損傷及び異常が無くても、次の使用期間を超えるもの。 -屋内で使用する場合、使用開始後7年。 -常時屋外で使用する場合、使用開始後3年。	
バックル及び端末金具	a)変形	○	○	目視	曲がり、ねじれ、ゆがみなどが認められるもの。
	b)きず	○	○	目視	著しい当たりきず、切欠ききずなどが認められるもの。
	c)亀裂	○	○	目視	亀裂が認められるもの。
				磁粉探傷※1又は浸透探傷※2	目視によって亀裂の疑いがあり、点検方法に定められた方法で、亀裂が認められるもの。
	d)摩耗	-	○	計測	摩耗量が、元の寸法の10%を超えるもの。
e)腐食	○	○	目視	全体に腐食が認められるもの、又は局部的に著しい腐食のあるもの。	

※1 JIS Z 2320-1による。

※2 JIS Z 2343-1、JIS Z 2343-5 及びJIS Z 2343-6による。

## ラチェットバックル式の操作の仕方

### 締め方

- 両端を固定した後、調節側ベルトの端を引っ張りたるみを取ります。
- ベルトを巻き上げて締め終わりましたら、必ずハンドルを戻し、ロックが掛かった状態を確認して下さい。

### ゆるめ方

- ハンドルを上下させ、たるみの取れたベルトを巻き上げ締めていきます(たるみの取れていない状態で巻き上げていくと、ベルトを巻き込み過ぎて、作動不良を起こすおそれがありますので必ずたるみを取って下さい)。
- 荷くずれするおそれがないことを確認したうえで、ハンドルの開放レバーを引きながら180度開きます。カチッと金具が外れる音がしてベルトがゆるみます。

## カムバックル式の操作の仕方

### 締め方

- 調節側ベルトを矢印①の方へ強く引いて荷物を固定し操作完了です。

### ゆるめ方

- カムを押すとベルトがゆるみます。調節側ベルトを矢印②の方へ引くとさらにゆるみます。

## 補修ベルトの取り替え手順

### 固定側取り替え方法

- 固定側のボルト、ナットをはずします。
- 新しい補修ベルトにボルトを差し込みます。
- ボルトを通し、ナットで締めて完了です。

### 調節側取り替え方法

- ラチェットの軸の溝にベルトを入れます。
- ラチェットの軸に通し元の方向にベルトを出します。
- ベルトの先を丸めテープなどで、まとめると抜け止めになります。



**INKA LASHING SYSTEM**



〒550-0023 大阪府大阪市西区千代崎 1-10-2  
**大洋製器工業株式会社** www.taiyoseiki.co.jp

製品に関するお問い合わせは上記ホームページより、ご連絡頂けますようお願い致します。